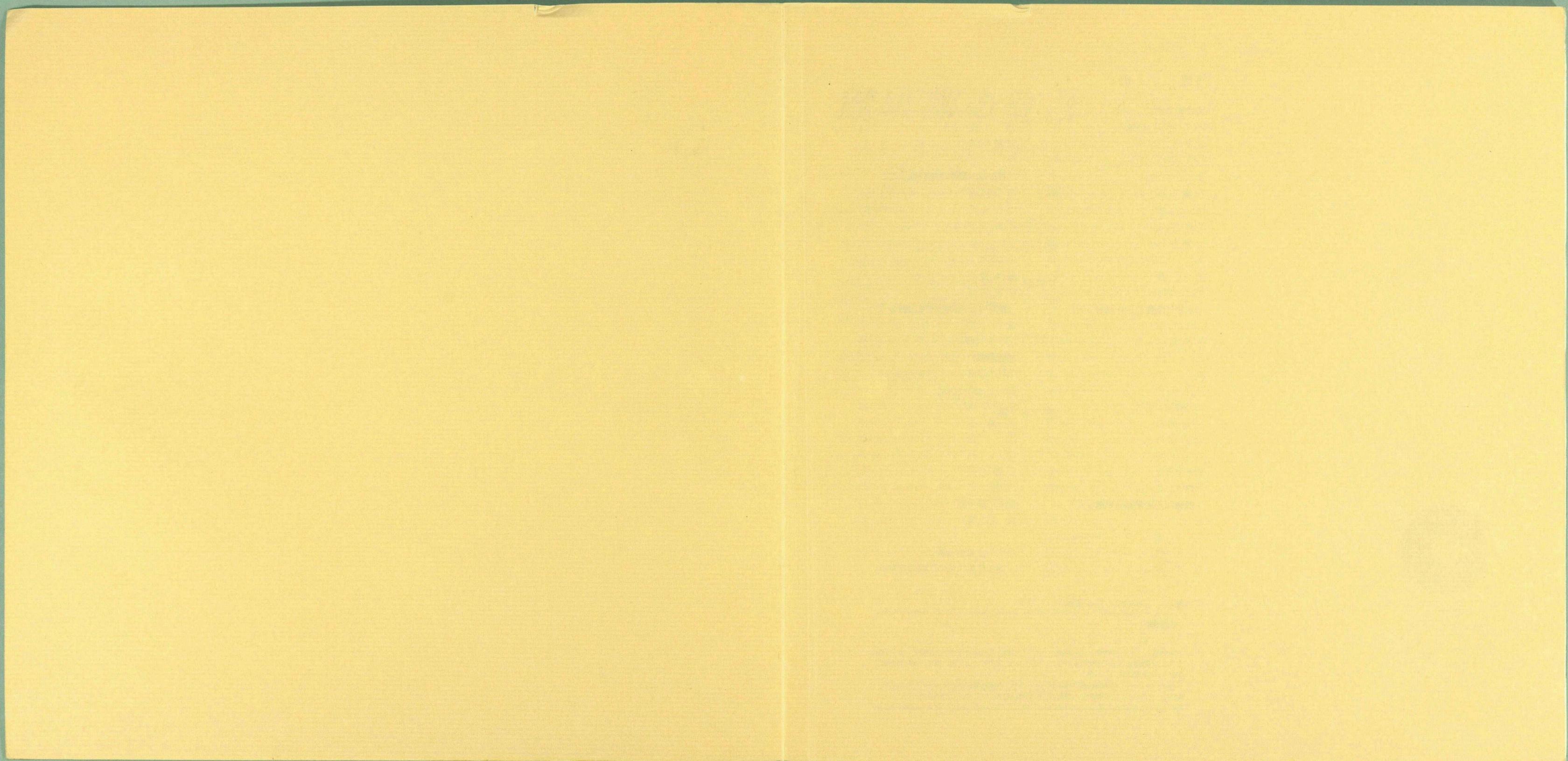


くまもと

'86市勢要覧

0
1
46



*目 次

健康都市宣言……………1	清 掃……………42
市木・市花・市鳥……………2	道 路……………44
発刊のことば……………3	市 営 交 通……………45
健康で楽しいある 活力にあちた近代都市……………4	住 宅……………46
熊本のあゆみ……………6	(豊かな人間形成を目指して)
名 誉 市 民……………13	学 校 教 育……………48
都 市 像……………14	学 校 施 設……………49
地域と気象……………16	社 会 教 育……………50
土 地 利 用……………17	文 化……………51
人 口……………18	火の国まつり……………52
都 市 圏……………20	国 際 交 流……………53
市政100周年にむけて……………21	社 会 体 育……………54
(幸せな市民生活を目指して)	(繁栄する地域社会を目指して)
コミュニティ……………22	商 業……………55
保 健 衛 生……………23	工 業……………56
防 災……………24	市街地開発……………57
消 防……………25	農林水産業……………58
交 通 安 全……………26	観 光……………60
心身障害者福祉……………27	基 幹 交 通……………62
児 童 福 祉……………28	市 議 会……………64
老 人 福 祉……………29	行 政……………66
社 会 保 障……………30	財 政……………68
勤 労 者 福 祉……………32	広 報 広 聴……………70
消費者行政……………33	市民のくらし……………71
(快適な生活環境を目指して)	熊本市案内図……………72
緑 と 水……………34	資 料 編……………73
公 園……………37	
上 水 道……………38	市内の主な官公署……………83
下 水 道……………40	熊本市歌・熊本市民愛市憲章

(題字……熊本市長 星子敏雄)

(表紙説明)

熊 本 城

熊本城は、かつて大阪城、名古屋城とともにわが国三名城に数えられた城郭で、慶長12年(1607)加藤清正が7年の歳月をかけて、周囲9km、大天守、小天守、櫓49、櫓門18をもつ複雑かつ壮大な城をつくった。

明治10年(1877)の西南の役に官軍がたてこもり、西郷隆盛の軍に50余日にわたって攻撃され、そのほとんどが焼失し、昭和35年9月現在の大天守、小天守が再建された。

健康都市宣言

熊本市は、緑と水に恵まれた豊かな自然と先人が築いた伝統と文化を擁し、地方における近代的な中枢都市として発展しつつある。

しかし、都市化の進展に伴い市民生活を支える基本である心身の健康を阻害する要因が増大している。

熊本市は、市民とともに明るく健康な都市をめざして諸施策を結集し、その実現につとめなければならない。

ここに、すべての市民の健康を市政の目標として、熊本市を「健康都市」とすることを宣言する。

昭和54年10月1日

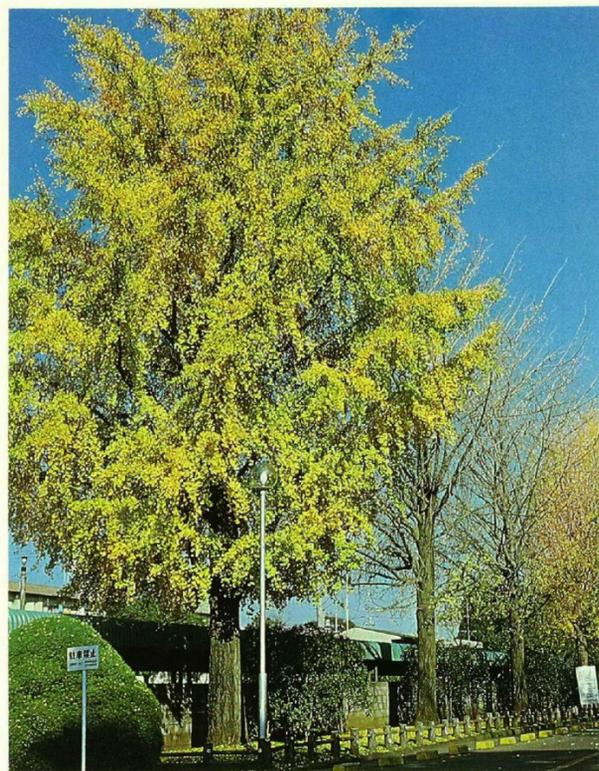
熊 本 市



熊本市章

ひらがなの「く」の字を図案化したもので、市民の調和を基とし、たくましく発展する熊本市の姿を太い円で示したものです。

市木・市花・市鳥



●市木……………イチヨウ（イチヨウ科）

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。



●市花……………肥後椿（ツバキ科）

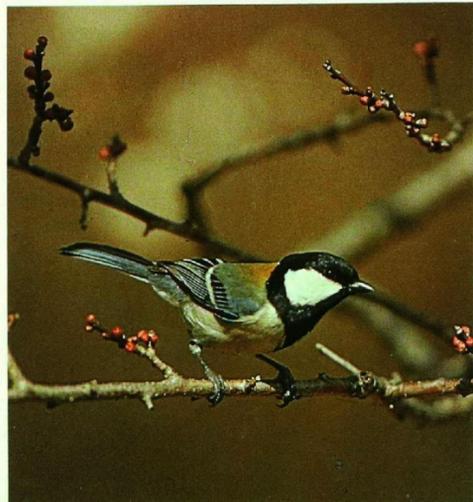
江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅蕊のように盛りあがるところにある。

市木、市花 昭和49年10月9日制定
市鳥 昭和59年5月22日制定

●市鳥……………シジウカラ（シジウカラ科）

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

（写真は東海大学出版会提供フィールド図鑑より）



発刊のことば



明治22年、熊本に市制が施行されてから97年、熊本市は今、緑と水の豊かな自然、先人が築きあげた優れた伝統と文化のもとで、心身ともに健康な市民生活と活力に満ちた都市活動とが営まれる人口55万有余の近代都市へと成長し、目前に迫った市制施行100周年、さらには、来るべき21世紀に向けて、新たな発展を遂げようといわしてあります。

今日のこの本市の姿は、偏に、明治、大正、昭和の3代を通じ、幾多の困難を克服してまちづくりに邁進された先達の偉大な御功績と、現代に生きる市民各位の御努力、御精進の賜であり、ここに、深甚なる敬意と感謝を捧げる次第であります。

我が国の現下の社会経済情勢は、高齢化、国際化、成熟化、情報化など、極めて大きな変化に直面しており、この中において、住民生活に密着した基礎的自治体である市町村、特に都市自治体には、創意と工夫をもって、真に豊かで活力に満ちた我が国の将来発展を支え、先導する役割が求められております。

本市においては、これまで、健康都市の実現など、総合計画に掲げる将来の都市像の実現に向けて、積極的に諸施策を展開してきたところであり、

その結果、各地の市民センター、保健センター、図書館、市民病院、清掃工場、広域防災センター、福祉センター希望荘等々の施設整備や、上下水道、公園緑地など市民生活に直結する生活環境整備も順調に進展し、近々完成する総合体育館・青年会館、流通センター建設等の大型事業も計画どおりに進んでいるところであります。

また、広域消防、流域下水道、ふれあいの森林など、生活圏の広域化に対応する都市圏行政も、周辺10町との連携のもと、広範な分野でその推進がはかられており、桂平市、ハイテイルベルク市等との国際交流も、年々、活発化いたしております。

しかしながら、本市は現在、市制施行100周年まで、余すところ3年という極めて重要な時期に差しかかっており、我が国内外の急激な情勢変化や本市を取り巻く環境の変容を見極めつつ、今後さらに、大いなる飛躍を遂げることが求められております。

私は、この市制100周年を、単に記念すべき歴史の節目というばかりでなく、21世紀に向けて胎動し始めた時代の流れに即し、次なる100年に向けて新たな一歩を踏み出す大切な機会であると考えており、したがって、その計画の策定から事業実

施に至るまで、まさに市民の総力を挙げて、これに取り組まなければならないと思っております。

このため、今後、本市において展開されるべき市政の主要課題と市制100周年の記念行事、記念事業の構想の策定をめざし、広く市民の皆様から御提言をいただくとともに、昨年10月、本市各界を代表する方々で構成された「熊本100年懇談会」を設置し、現在、活発に御審議いただいているところであります。

市政100周年はもとより、来るべき21世紀を展望しつつ、今後とも、「健康で潤い溢れる活力に満ちた近代都市・熊本」の建設に邁進する所存でありますので、市民各位の一層の御支援、御協力をお願いする次第であります。

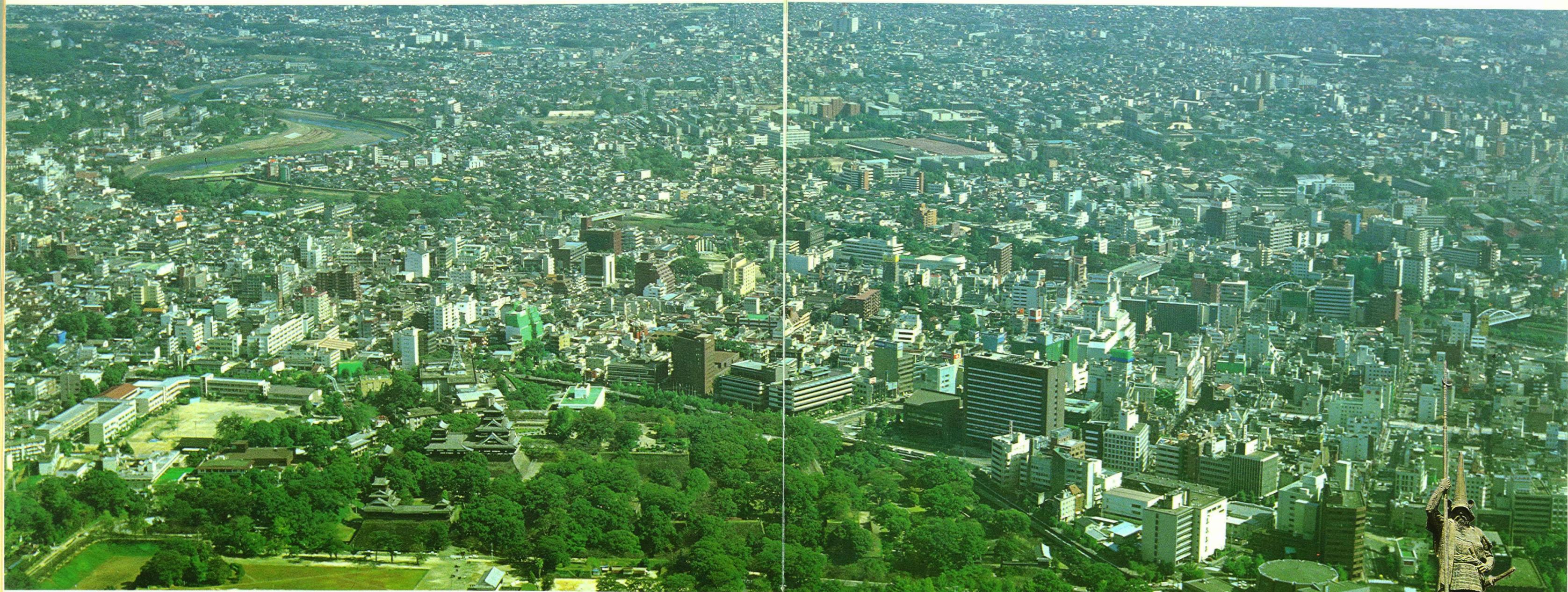
最後になりましたが、この市勢要覧には、本市の現況、具体的なまちづくりのありかたなどを収録いたしておりますので、御高覧いただき、市政への理解を深めていただければまことに幸いに存じます。

昭和61年3月

熊本市長

星子敏雄

健康で潤いのある 活かにみちた近代都市



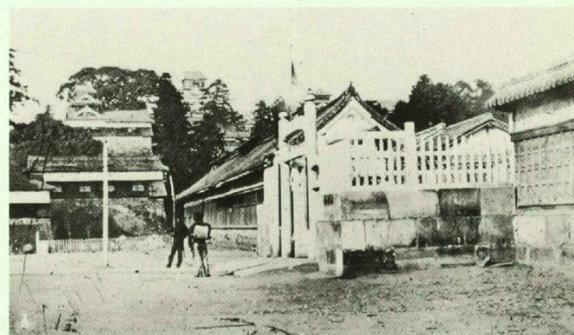
熊本のおゆみ

熊本はむかしから火の国と呼ばれた。大化の改新後、奈良時代に入って国府の制度がしかれると、現出水町に国府がおかれた。このうち、奈良、平安、鎌倉の各期を経た約700年後の室町期のころ菊池氏の一族、出田秀信が熊本にはじめて城を築いたが、これが現在の千葉城跡である。それから数代を経てときの城主鹿子木親員入道寂心が茶臼山に新たに城を築き、それを隈本城と呼んだ。その後豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇する

や、小西行長と加藤清正に肥後を分領させた。その後徳川の天下となって、加藤清正が肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に新城を築き隈本城を熊本城と改めた。熊本市が町として体制を整えてきたのはこのころのことで、このあと細川忠利が肥後の領主となり、以後二百有余年にわたって大政奉還まで細川家が肥後の政治を行った。明治10年の西南の役では、兵火で市街地の大部

分が灰燼に帰したが直ちに復興し、明治22年熊本市が誕生した。大正から昭和にかけて隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固め、九州における政治、経済、教育の中心地として発展を続けた。その後、昭和20年の空襲及び28年の大水害での被害を克服し、健康で明るく豊かな、真に魅力ある近代都市の実現をめざし市政を推進している。

	西暦	年代	おもなできごと
大化	646	大化2年	砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される
	1469	文明1年	菊池氏の一族、出田秀信 千葉城を築く
	1496	明応5年	鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する
慶長	1601	慶長6~12年	加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う
	1607		
寛永	1632	寛永9年	細川忠利、肥後藩主となる
	1754	宝暦4~6年	藩校時習館、医学校再春館、藩滋園(葉草園)などが創設される
1756			
明	1870	明治3年	古城に医学校が創設される
	1871	4年	廃藩置県により熊本県が設置される
			鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される
			熊本洋学校が創立される
	1874	7年	九州最初の新聞、白川新聞が発行される
	1877	10年	西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
	1886	19年	熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される
1887	20年	第五高等中学校(九州に1校)が創立される	
治	1889	22年4月	市制町村制が施行され、熊本市が誕生する 市域面積5.55km ² 、人口42,725人、戸数11,797戸 市議会議員数30人、市職員48人であった
		6月	赤十字社熊本支部設立 新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁
	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	
	1890	23年1月	熊本測候所が設置される
		7月	第1回衆議院議員総選挙が行われる

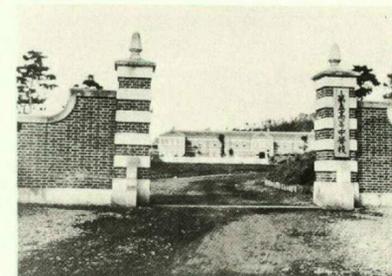


鎮台花畑本堂と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。

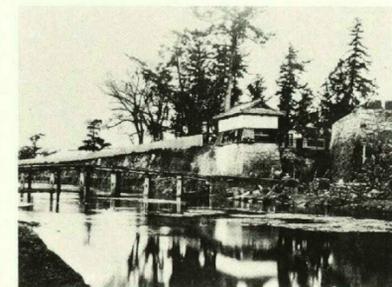


新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。

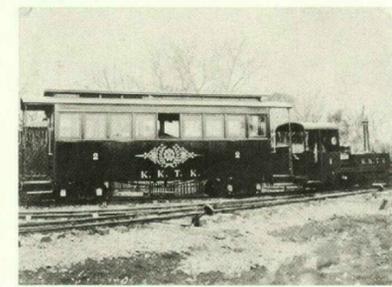
	西暦	年代	おもなできごと
明	1890	明治23年10月	教育勅語発令(井上毅と元田永孚が成案)
		11月	第1回帝国議会が開かれる
	1891	24年7月	門司・熊本間の九州鉄道が開通 熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
			11月
	1892	25年4月	塘林虎五郎が資児寮(現大江学園)を設立
	1894	27年7月	第6師団に動員令がくだる。孤児、貧児の養育を目的とした天使園が設立される
			8月
	1895	28年11月	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
	1896	29年4月	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
			9月
	1898	31年1月	熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置
			10月
1899	32年5月	下河原公園が開園	
		6月	私立医学校が熊本医学専門学校となる
1900	33年7月	12月	三角線開通
		市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数	
1901	34年1月	熊本郵便局が電話業務を開始	
1902	35年11月	明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を挙行政幸橋を架設	
		市区改正の事業と新市街の事業完成	
1903	36年3月	日露戦争はじまり、第6師団出征	
		熊本高等工業学校設立	
1904	37年2月	9月	夏目漱石が「草枕」を発表
		九州鉄道が国有となる	
1906	39年3月	12月	熊本軽便鉄道株式会社が安巴橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設
		人力車争議おこる	
1907	40年7月		
1908	41年2月		
1909	42年	鹿児島本線全線開通	



明治20年古城に新設された第五高等中学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。



軽便鉄道。K. K. T. Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。

	西暦	年代	おもなできごと		
明	1910	明治43年 1月	薬学専門学校発足		
		4月	女子師範学校発足		
治	1911	6月	熊本ガス株式会社が開業する		
		44年 4月	市立実科高等女学校開校 市立工業徒弟学校開校		
大	1913	10月	菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設		
		大正2年	この年・熊本軌道が田崎・百間港、田崎・高麗門に開通		
		3年 7月	第1次世界大戦はじまる		
		4年 11月	御大典記念奉祝共進会を開催		
		5年 6月	県公会堂が市に移管される		
		6年 3月	熊本市工業徒弟学校が熊本商工学校となる		
		7年 7月	このころより全国に米騒動		
		10月	スペイン風邪が流行し、全国で死者15万人		
		1920	9年 10月	第1回国勢調査で、市人口70,388人 (市史) 戸数 13,817戸	
		1921	10年 6月	隣接11ヶ町村を合併、人口133,467人 戸数23,819戸の大熊本市が発足(黒髪・池田・花園・島崎・横手・春日・古町・本荘・春竹・大江・本山)	
		1922	11年 4月	熊本市立実科高等女学校が熊本市立高等女学校となる	
		正	1923	5月	熊本医学専門学校が医科大学に
12年 12月	手取本町に市役所新庁舎完成				
1924	13年 8月			市営電車開通(車輛15台) 開通に伴い鉄筋コンクリート大甲橋を架設	
10月	歩兵第23連隊が渡鹿に移転				
11月	熊本市上水道完成				
1925	14年 3月			市三大事業(市電、上水道、23連隊移転)完成記念共進会開催 入場者133万人	
4月	出水村を市に合併				
1926	15年 8月			三大事業完成記念共進会の剰余金で五高と下河原にプールを造成	
昭	1927			昭和2年 2月	長六橋を近代式鉄橋に架け替える
				4月	市民の要望で午後のドンが復活
和	1928			7月	市立工業研究所(後の工芸指導所)が開所
				12月	市営バス発足(バス17台)
和	1928	3年 2月	この年・市及び市付近の人力車812、乗用馬車4、自動車115 第16回総選挙、最初の普通選挙行われる		



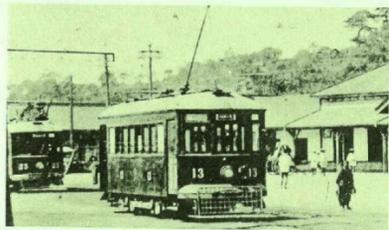
大正2年10月3日二階建八角形の肥後相撲館が落成した。



大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人々。



大正12年12月、市役所新庁舎完成。

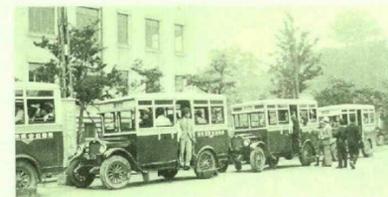


大正13年8月1日市電開通。救助網がついている開通当時の13型電車。



大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。

	西暦	年代	おもなできごと	
昭	1928	昭和3年 6月	NHK熊本放送局でラジオ初放送	
		9月	御大典記念事業として、陸上競技場、野球場が完成	
和	1929	4年 7月	水前寺動物園が開園	
		5年 3月	熊本市歌を制定	
		4月	市営勤業館が新市街に開館	
		10月	市公会堂新館が開館	
		1931	6年 6月	白坪村を市に合併
		11月	天皇陛下をお迎えし、熊本平野等で陸軍特別大演習を挙行	
		1932	7年 9月	失業救済の土木事業をはじめ
		12月	画図村を市に合併	
		1933	8年 3月	花園町に市営墓地を開設
		4月	熊本高等小学校が再設開校 熊本駅に観光案内所を設置	
		1935	10年 3月	新興熊本大博覧会を開催
		1936	11年 11月	健軍村を市に合併
1939	14年 4月	清水村を市に合併		
1940	15年 12月	川尻町、日吉村、力合村を合併 この年・市営バスに木炭車登場		
和	1941	16年 4月	小学校が国民学校に改められる	
		12月	太平洋戦争はじまる	
		1942	17年 4月	九州日日新聞と九州新聞が統合され、熊本日日新聞が発足
		1943	18年	この年・学徒、女子挺身隊の戦時動員が開始される 健軍に三菱重工業航空機製作所が完成する
		1944	19年 3月	市電気局が市交通局と改称
		1945	20年 6月	市立産院が発足
		7月	7月・8月の空襲で市の大半が焦土と化す	
		8月	終戦の詔書放送	
		1946	21年 2月	市立市民病院発足
		11月	日本国憲法公布(新憲法) この年・学校給食はじまる	
		1947	22年 4月	市長、県知事が初めて公選で決まる 国民学校が小学校に、また新制中学が誕生
		5月	憲法、地方自治法施行	
1948	23年 3月	市消防本部設置 市立母子寮を開設 市自治警察本部設置(新警察制度発足)		



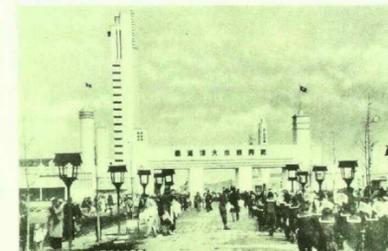
昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。(写真は昭和8年6月)



昭和4年7月に水前寺動物園が開園。



昭和5年5月、公会堂の新館が開館。昭和43年市民会館の出現に伴い取りかわされた。



昭和10年3月から5月にかけて開かれた新興熊本大博覧会。



昭和10年頃の市新街記念碑前、市営バスの発着所。左に専売局と公会堂、右に勤業館、電話局が見える。

	西暦	年代	おもなできごと
昭	1948	昭和23年4月	新制高等学校発足する
	1949	24年4月	「火の国まつり」はじまる 市立実務員養成所（後の実務商業）を開設
		5月	天皇皇后両陛下ご来熊 この年・国立熊本大学発足 県立熊本女子大学が創設される
	1950	25年6月	朝鮮戦争おこる
		7月	市競輪事業開設
	1951	26年4月	市教育研究所を設置
	1952	27年1月	市立博物館開館
		7月	住民登録制度を実施
	1953	28年4月	田迎村、御幸村を市に合併
		6月	豪雨、大水害で市人口の66%が罹災
		7月	池上村、高橋村、城山村を市に合併
		10月	市立図書館発足 ラジオ熊本開局
	1954	29年6月	市自治警察廃止（警察制度改正）
		10月	秋津村を市に合併 市電30年記念「交通観光博覧会」を開催
	1955	30年4月	松尾村を市に合併
1956	31年4月	託麻村の一部を市に合併	
1957	32年1月	小島町、龍田村を市に合併	
	7月	大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者行方不明多数を出す	
1958	33年2月	NH K熊本テレビ開局	
	4月	中島村を市に合併 天皇皇后両陛下ご巡幸で立田山、水前寺などをご観覧 第30回選抜高校野球大会で済々貴が優勝	
和	1959	34年4月	国民年金制度発足
		7月	国民健康保険制度発足
	1960	35年4月	熊本空港開設
		5月	愛市憲章を制定
		8月	熊本城天守閣再建完成
		9月	第15回国民体育大会を開催
		12月	西保健所を開設
	1962	37年3月	天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催
	1963	38年4月	北部清掃事業所完成



「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山、流失した家財などで復旧に多くの人手、資料と時日を要した。（上通り筋）



昭和33年9月、水前寺公園横の電車通りに鉄筋コンクリート造りの体育館が完成した。



昭和35年9月、83年ぶりに熊本城天守閣が再建された。



昭和43年1月6日市民会館が完成。1,800人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。

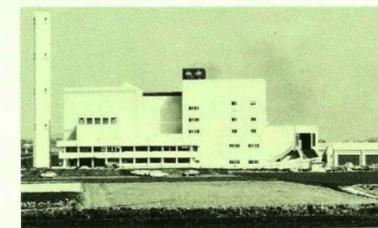
	西暦	年代	おもなできごと
昭	1964	昭和39年4月	市総合計画策定（マスタープラン）
		10月	「まちをキレイにする運動」がはじまる
	1965	40年4月	市食肉センター開設 この年・市内全小学校にプール完成
	1966	41年7月	西部清掃事業所完成
		9月	市内相談室を設置
		10月	熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足
	1967	42年3月	出水町に県庁新庁舎が完成
	1968	43年1月	市民会館開館
		4月	市社会教育会館が開館 市育英奨学制度創設
	1969	44年4月	熊本（水辺）動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催
		8月	熊本市章さきまる
	1970	45年11月	託麻村を市に合併
	1971	46年4月	新熊本空港開設
		5月	市勤労青少年ホーム開館
		6月	九州縦貫高速自動車道（熊本・植木間）開通
	7月	熊本市基本構想さきまる	
	11月	市立ユースホステル開館	
1972	47年10月	「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開	
	12月	秋津下水処理場が完成	
1973	48年1月	戸島町に市斎場開設	
	5月	学校給食東共同調理場が完成	
1974	49年6月	勤労婦人センターを本山町に開設	
	10月	西部、南部市民センターが完成 森の都のシンボルとして市の木「イチヨウ」、市の花「肥後ツバキ」がさきまる	
和	1975	50年5月	身体障害者福祉モデル都市に指定される
		9月	南千反畑町に中央老人福祉センターが完成
		10月	市立金峰山少年自然の家が開所
	1976	51年3月	「地下水保全都市」を宣言
	1977	52年4月	西南の役百周年記念式典を行う
		5月	熊本市人口が50万人を突破
		9月	錦ヶ丘に東部市民センター完成
			地下水保全条例を制定する
	1978	53年4月	新しい熊本博物館が開館



昭和52年9月東部市民センター開設。



郷土熊本に根ざした西日本一を誇る熊本博物館が昭和53年4月1日に開館した。



昭和54年4月最新の処理機能を誇る、東部清掃工場完成。



昭和54年4月最新の医療設備を備えた市民病院完成。



昭和55年6月、身障者福祉センター希望荘開設。

西暦	年代	おもなできごと	
昭	1978 昭和53年8月	市民総参加の「火の国まつり」が誕生	
	1979 54年4月	新熊本市市民病院開設	
		7月	東部清掃工場完成
		7月	熊本市保健センターが開所
	1980 55年6月	龍田市民センター完成	
		10月	「健康都市」を宣言
		10月	中国・桂林市と友好都市締結
	和	1981 56年1月	市制90周年記念式典を行う
		1981 56年1月	身障者福祉センター希望荘開設
			8月
1981 56年1月		12月 熊本市総合計画基本構想きまる	
		56年1月	熊本市保健衛生研究所開設
1981 56年2月		熊本市保健センター完成	
		2月	熊本城西大手橋門復元完成
1981 56年3月		3月 産業文化会館が開館	
		3月	産業文化会館が開館
和		1981 56年5月	桃尾霊堂完成
	1981 56年7月	5月 託麻市民センター完成	
		7月	熊本市総合計画基本計画きまる
	1981 56年8月	8月 西ドイツハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣	
		9月	豊肥線武蔵塚駅完成
	1981 56年10月	10月 熊本市市民の翼、友好都市桂林市を訪問	
		11月	新市庁舎建設完成
	1982 57年6月	6月 幸田市民センター完成	
		7月	北部保健センター開所
	1982 57年7月	7月 小橋記念館完成	
7月		青少年野外活動センター完成	
1982 57年8月	8月 西ドイツ・ハイデルベルク市管楽五重奏団来熊		
	8月	新型電車運行開始	
1983 58年11月	11月 図書館完成		
	1983 58年4月	龍田体育館完成	
1984 59年5月	5月 市の鳥としてシジュウカラ制定		
	7月	清水市民センター完成	
1984 59年8月	8月 熊本市の人口が55万人を突破		
	10月	消防新庁舎完成	
1985 60年6月	6月 母子福祉センター完成		
	7月	秋津市民センター完成	



昭和56年2月、熊本城西大手橋門復元完成。



昭和56年3月、産業文化会館が開館した。



昭和56年11月、新市庁舎建設完成。

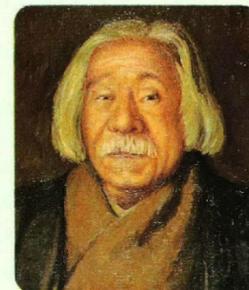


昭和57年11月、図書館完成。



昭和60年7月、秋津市民センター完成。

名誉市民



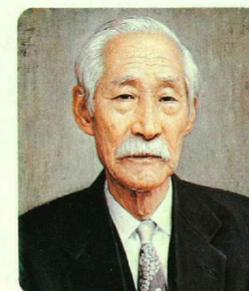
徳富蘇峰（本名・猪一郎）氏
（昭和30年1月1日表彰）

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発行。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生、昭和32年11月2日死去、95歳。



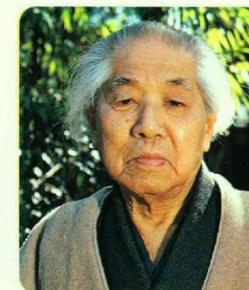
細川護立氏
（昭和35年4月1日表彰）

肥後日藩主細川家16代。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用へ貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。



宇野哲人氏
（昭和44年10月1日表彰）

東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



後藤是山（本名・祐太郎）氏
（昭和54年10月1日表彰）

元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、熊本の文化の啓蒙に尽し、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述がある。「明星」同人、句誌「かはがらし」（後の東火）主宰。明治19年6月8日生れ、現在99歳。熊本市在住。



高橋守雄氏
（昭和30年1月1日表彰）

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月6日死去、73歳。



福田令寿氏
（昭和35年4月1日表彰）

医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。



堅山南風（本名・熊次）氏
（昭和44年10月1日表彰）

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色にじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



中村汀女（本名・破魔子）氏
（昭和54年10月1日表彰）

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、俳壇に女流俳人としての確固たる地位を築いた。氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」主宰。明治33年4月11日生れ、現在85歳。東京都在住。